

# 私立大学研究ブランディング事業

## 28年度の進捗状況

学校法人番号	141001	学校法人名	麻布獣医学園		
大学名	麻布大学				
事業名	動物共生科学の創生による、ヒト健康社会の実現				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	2160人
参画組織	獣医学部, 生命・環境科学部, 獣医学研究科, 環境保健学研究科				
事業概要	<p>本事業は、「ヒトと動物の共生システム」を科学的に解明し、その成り立ちを介してヒトの健康社会の実現に貢献することを目的とする。イヌを代表とする動物との親密な社会的かかわり、すなわち共生がなぜ成り立つのか、そして共生による動物由来の微生物叢がヒトの健康の推進にどれほど影響するのか、これらの動物との共生のメカニズムを分子生物学的に明らかにする。この目標のために、以下の3つのテーマを設定し、新たな動物との共生科学の概念の構築とヒト社会への貢献を目指す。</p>				
①事業目的	<p>イヌは最古の家畜であり、4-5万年程度前からヒトと共生してきた。この共生の過程で、ヒトとイヌは特殊な関係性を構築し、最も身近な動物として広くヒト社会に介在している。これまでイヌと生活することでのヒトの心身に対して恩恵に与えることが考えられてきた。本課題では、ヒトとイヌを代表とする動物との関係性を、ヒトの健康への寄与という観点から、分子生物学的、行動学的にそのメカニズムの解明に挑み、大学が一丸となって動物共生科学を創生し、ひいては、それらが大学の特徴となること、並びにヒト健康社会の実現に貢献することを目的とする。</p>				
②28年度の実施目標及び実施計画	<p>本事業の目的を達成するため、3つのテーマ「認知的インタラクション解析」「共進化遺伝子の同定」「微生物クロストーク」を設定し、各テーマの研究プロジェクトを決定することを実施目標にした。そのために、12月に本事業の学内公募を行い、1月に審査を行い、2月に各テーマにおける研究プロジェクトを決定し、平成29年度からの本格稼働のための体制を整備した。</p>				
③28年度の事業成果	<p>本事業において学内で課題を募集したところ、19の研究プロジェクトの応募があり、審査を行った。3つのテーマごとにそれぞれ「認知的インタラクション解析」においては4つのプロジェクト、「共進化遺伝子の同定」においては7つのプロジェクト、「微生物クロストーク」においては3つのプロジェクト、合計14の研究プロジェクトを決定した。これらの研究プロジェクトの概要については本学の私立大学研究ブランディング事業のホームページに発表した。</p>				
④28年度の自己点検・評価及び外部評価の結果	<p>(自己点検・評価) 「動物共生科学の創生による、ヒト健康社会の実現」というプラットフォームを基に、本事業に参加するために19の研究プロジェクトの応募があった。さらに公開で研究代表者がプレゼンテーションを行い、審査を行った結果、14の研究プロジェクトが候補となり、最終的に学長が議長となる学術戦略会議でこれらの研究プロジェクトが承認された。これらの14の研究プロジェクトは本学の両学部および教職課程や基礎教育系の教員も研究代表者となり、本学の幅広い人材が参加することが可能となり、本学が一丸となり本事業に取り組む枠組みが構築することができたことは評価される。</p> <p>(外部評価) 3つの大きな研究テーマに分けられているが、麻布大学の各研究グループの特色がよく表れた研究課題になっており、今後の研究の発展が期待できる。とくに「ヒトと動物との微生物クロストーク」は本研究事業によく合った研究内容と考えられる。大学内での共同研究体制が十分に検討されていることは大いに評価できる。犬との共生が、何を、どのような分子論的機作で生み出しヒトの健康につながるのかを、獣医学の様々な視点で追求する研究課題であり、麻布大学の研究陣容を反映したものである。認知の分子基盤や、微生物叢までを含めた共生の分子進化など、他に類のない特色ある研究が花開くことを期待したい。</p>				
⑤28年度の補助金の使用状況	<p>28年度は事業初年度であったことから、本事業の研究統括者及び研究副統括者と協議の上、本事業のスタートアップに必要な備品を中心に購入した。 その他、私立大学研究ブランディング事業Webサイトの制作費として執行した。</p>				